

●特別論考：ロシア革命1世紀を生きぬく視角—『ジョレス&ロイ・メドヴェージェフ選集』日本語版刊行によせて—

(別表) ジョレス&ロイ・メドヴェージェフ/Zhores & Roy Medvedev兄弟の主要科学論争・歴史・政治史・核問題関係の著作活動年表

年	著者	初版等	著者	邦訳版等
1925		グルジアのチプリス (現トビリシ) で双子兄弟が誕生		
1938		スターリン大粛清の頂点。父 (赤軍軍政大学の哲学講師。レニングラード大学の哲学講師も兼務) アレクサンドルが逮捕される		
1941		父アレクサンドル・メドヴェージェフ、極東マガダン地方コリマの銅鉱山ラゲリで強制労働のため負傷、死亡		
1943		兄弟、17歳で「大祖国戦争」に従軍。ジョレスはクリミア半島に近い、独ソ戦激戦地タマン戦線に負傷。傷重軍人として退役		
1950		ジョレス、ディミトリーゼフ (モスクワ) 農科大学農芸化学・土壌学部卒業。同年、学位 (博士候補) を取得		
1951		ロイ、レニングラード大学哲学・歴史学部卒業。のちに、働きながら通信教育制のソ連教育学大学で研究し、学位 (博士候補) を取得		
1953		スターリン死		
1956		フルシチョフが第20回党大会でスターリン批判。ロイがソ連共産党に入党 (ジョレスは、百害あって一利なしと、一度も入党せず)		
1957		分子生物学専攻のジョレスが、アイソトープ (放射性同位元素) 研究の第1回ユネスコ・パリ会議に出席。海外研究者との知己が広がる		
61-66	Zh	62年に初版『生物学と個人崇拜 農業生物学論争史(ルイセンコ学説の興亡)』、62.64年に改訂。サミズダートが異論派内や核物理学者に広がる		
62-68	R	62年末から『歴史の審判に向けて』の執筆開始。半年毎に改訂。サミズダートとして回覧され、異論派作家やサハロフらも注目		
64-70	R	『政治日誌』という名の文書を毎月5部刊行。定期読者は約40名		
1968	R	サハロフの海外ベストセラー『進歩、平和共存と知的自由』が、『幻の大著 (歴史の審判にむけて Let History Judge)』の存在を公表		
	R	Let History Judge: the Origins and Consequences of Stalinism (original text in Russian)		
1969	R	『歴史の審判にむけて』の執筆活動を理由に、ソ連共産党から除名処分を受ける		
	Zh	The Rise and Fall of T.D. Lysenko		
		ジョレス、『ルイセンコ学説の興亡』の海外出版によりオプニンスク放射線医学研究所を解雇される		
1970		ジョレス、精神病院に監禁される。ソ連内外の科学者や作家の抗議で釈放される。『朝日』や『毎日』など、日本でも報道		
	R	Let History Judge: the Origins and Consequences of Stalinism (in English)		
	Zh	The Medvedev papers: fruitful meetings between scientists of the world		
1971	ZhR	A Question of Madness	Zh	金光不二夫訳『ルイセンコ学説の興亡』河出書房新社
		KGBが、ロイ著 Let History Judge の英語版刊行を知り、9月にロイ逮捕を決定、10月にロイ自宅捜査、勅権・原稿を没収し、ロイ召還		
		ロイは、逮捕を避け、10~12月にソ連各地を遊歴し、逃避行。英語版刊行で、世界の有名作家になったロイを、KGBは逮捕できず		
	Zh	金光訳『ソビエト科学と自由』タイム・ライブ社 (Medvedev Papers)		
1972	R	On Socialistic Democracy (in Russian)		
1973		ジョレスが英国への研究出張中にソ連市民権を剥奪される。以後、ロンドンを拠点に執筆継続、米国など各国で講演		
73-74	R	石堂清論訳『共産主義とは何か (上・下)』三一書房 (Let History Judge)		
1974	Zh	Ten Years after Ivan Denisovich	Zh	安井信子訳『ソルジェニーツィンの闘い』新潮社 (Ten Years after...)
	R	家宅捜査受け、異論派資料を没収される	Zh	石堂清論訳『社会主義的民主主義』三一書房
1975	Zh	Secrecy of Correspondence Is Guaranteed by Law		
	Zh	National Frontiers & International Scientific Cooperation		
1976	ZhR	Khrushchev: The Years in Power		
	Zh	英科学誌『New Scientist』にウラル核爆事に関し投稿 "Two Decades of Dissidence"。世界の核開発当局と科学界に波紋		
		(ジョレスの「ウラルの核爆事」公表に、英原子力委員会議長ジョン・ヒル脚が、放射性廃棄物の爆発はありえない、と一蹴)		
76-77	R	英日曜誌『Observer』副編集長が、ジョレスに力言:「情報公開法に則して米国CIAにウラル核事故の情報開示を請求されたし」		
	R	ロイ編集/石堂清論訳『ソヴェト反体制』第1・第2巻、三一書房		
1977	Zh	英誌『New Scientist』に新稿 "Facts behind the Soviet Nuclear Disaster"。オークリッジやロスアラモスの核開発当事者が注目		
	R	Problems into the Literary Biography of Mikhail Sholokhov		
	Zh	Hazards of Nuclear Power (with A. Roberts)	ZhR	石堂清論訳『告発する! 狂人は誰か』三一書房
		ラルフ・ネーターと米紙『ワシントンポスト』が、ジョレスの指摘 (使用済み核燃料の爆発情報) を要約してC I Aに開示情報を公表		
1978	Zh	Soviet Science	R	佐藤藤次郎訳『ソ連における少数意見』岩波新書
	R	Philip Mironov and the Russian Civil War (with S. Starikov)		
1979	Zh	Nuclear Disaster in the Urals		
		(J・ヒル脚の抗議で遅延していた本書刊行を、「スリーマイル島原発メルトダウン」事故の発生で、出版社が決断、市販開始)		
	R	On Soviet Dissent (in Italian)		
	R	Nikolai Bukharin: The Last Years (in Italy)	R	石堂清論訳『失脚から銃殺まで—バーリン—』三一書房
	R	On Stalin and Stalinism	ZhR	下斗米伸夫訳『フルシチョフ権力の時代』御茶の水書房 (1980年刊)
		ロイが、モスクワのソヴェトドフロフ選挙区で「1979年選挙」集団を代表しソ連最高会議代議員候補選挙に立候補。80年、81年に立候補		
1980	R	The October Revolution (published in 1979)	R	石堂清論訳『スターリンとスターリン主義』三一書房
1981	R	Leninism & Western Socialism	Zh	熊井謙治訳『ソ連における科学と政治』みすず書房 (1981年刊)
1982	R	Khrushchev	Zh	梅林宏道訳『ウラルの核爆事』技術と人間
	Zh	Andropov		
1983	R	All Stalin's Men	Zh	毎日新聞外信部訳『アンドロポフ クレムリン権力への道』毎日新聞社
	R	Nikolai Bukharin: The Last Years (in English)		
1984		ロイ、モスクワのアパートで自宅軟禁。アパートに検問所ができる		
1986		ソ連ウクライナ共和国チェルノブイリ原子力発電所で事故		
	Zh	Gorbachev		
	R	China and the Superpower		
1987	Zh	Soviet Agriculture (佐々木洋が1995年に邦訳)	Zh	毎日新聞外信部訳『ゴルバチョフ』毎日新聞社
		ジョレスが、日本外務省の内容の招へいより、初の来日。意味あるゴルバチョフ情報がない外務省当局者に東京でレクチャー		
1989		ロイが、初代ソ連最高会議人民代議員のひとりに当選。サハロフ、シチェルバク、アラ・ヤロシンスカヤらも落挙当選		
		ソ連最高会議が、ロンドンからジョレス・メドヴェージェフを招へい、「ウラル核爆事」問題を審議。ソ連政府が「1957年惨事」の事実を認証		
		ロイが、ソ連共産党に復讐。ベルリンの壁崩壊		
1990		ゴルバチョフ政府がジョレスのソ連市民権を回復	R	ロイ/キエフ共著『証言 内側から見たベレストロイカ』毎日新聞社
1991		ソ連邦崩壊。ソ連共産党解体		
1992	Zh	Legacy of Chernobyl	Zh	吉本晋一郎訳『チェルノブイリの遺産』みすず書房
1995			Zh	佐々木洋訳『ソヴェト農業: 1917-1991』北海道大学図書刊行会
1997	R	Russian Revolution in 1917 (in Russian in 1998)	R	石井規規訳『10月革命』未來社 (1998年刊)
		ジョレス二度目の来日。札幌学院大学50周年国際シンポジウムで基調講演。北大スラブ研究センターおよび札幌大学でも講演		
1998	R	Capitalism in Russia? (in Russian)	R	石井規規・沼野充義監修『1917年のロシア革命』現代思潮新社
	Zh	『市場社会の警告—シンポジウム 市場社会と共生の原理』現代思潮社		
1999	R	New Crisis of Russia (In Russian)	R	海野幸男・渡辺寛美訳『1998年夏—1998年夏』現代思潮社
	R	ロシアは資本主義になれるか? (加藤藤津子・蓮見雄訳, 現代思潮社)	R	ロシアは資本主義になれるか? (加藤藤津子・蓮見雄訳, 現代思潮社)
		ロイが、『ロシアは資本主義になれるか?』の出版を機に、東京大学、北海道大学、札幌学院大学など、日本各地の大学で講演		
2000	R	Putin's Enigma (in Russian)	R	海野幸男訳『プーチンの謎』現代思潮新社
2002	ZhR	Unknown Stalin (in Russian)		
	Zh	Stalin and the Jewish Question		
02-04	ZhR	選集全4巻 Selected Works, I-IV (in Russian)		
2003			ZhR	久保英雄訳『知られざるスターリン』現代思潮新社
2004	ZhR	Solzhenitsyn and Sakharov: Two Prophets (in Russian)		
2005			ZhR	大月晶子訳/佐々木洋解題、『ソルジェニーツィンとサハロフ』現代思潮新社
2007	Zh	Nutrition and Longevity (in Russian)	R	海野幸雄訳/佐々木洋対談・評註『スターリンと日本』現代思潮新社
2008	Zh	Polonium in London (in Russian)		
2010	ZhR	Memoirs 1925-2010 (in Russian)		
2011		ジョレスが、3・11福島原発震災をうけ、「キシチュム、チェルノブイリ、そしてフクシマ」を『週刊金曜日』847号に寄稿 (拙訳稿)		
	R	And Quiet Flows the Don; Puzzles and Discoveries of the Great Novel (in Russian)		
2012			ZhR	佐々木洋訳/天野尚樹訳『回想 1925-2010』現代思潮新社
2014	Zh	Dangerous Occupation (in Russian)90歳記念エッセー執筆つく		(2015年8月現在までに78編のエッセーが筆をいとく)
2015			ZhR	現代思潮新社版の選集全二巻四冊の刊行計画が固まる

注: 1. ZhはZhores著の、Rはロイ著の、ZhRは兄弟共著の略。2. 本リストは、ジョレスの加齢学や分子生物学の専門分野の著作を含まない。